野火止シネマ倶楽部 vol.6 ＆ 東京演劇アンサンブル３月公演 茶番劇 行ったり来たり プレ企画

高賛侑監督『ワタシタチハニンゲンダ！』上映会

東京演劇アンサンブルは３月公演として、オーストリア＝ハンガリー人であるエデン・フォン・ホルヴァート作『行ったり来たり』を上演します。
破産により国外追放となったハヴリチェクは仕方なく出生地である隣の国へ向かうが、隣国では『継続して外国で暮らすものは一定期間内に領事館に届け出なければならない。そうしない者は自動的に国籍を失うこととなる』という法律が 20 年も前に公布されていた。
生まれた国にも育った国にも入国できず、国境間の橋を〝行ったり来たり〟させられるハヴリチェク。暴力的な線引き、守られるべきアイデンティティ……境界線というものがどのように人間に作用し、個の存在を脅かすのか？　それが多角的に見えてくる舞台になりそうです。
公演前にこの映画の上映をすることで、現在起きている在日外国人への差別政策の全貌を見つめ、多くの方に知ってもらうと共に、人間の存在の重たさを改めて考え、想像力を深める時間にできたらと思っています。

東京演劇アンサンブル 切羽委員会

作品紹介

「私たちは動物ではない。人間だ！」

ホームページ
http://ningenda.jp

2021年3月、スリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさん（33）が名古屋入管で死亡した。
彼女の死は長年ベールに包まれてきた入管の闇を、公権力による外国人差別の歴史を象徴する事件と言って過言ではない。
戦後、日本政府は、在日外国人の9割を占めていた韓国・朝鮮人の管理を主目的とする外国人登録法などを制定した。
そして後年、他国からの在留者が増えると、全ての外国人に対する法的・制度的な出入国管理政策を強化してきた。
◆在日コリアン／高校無償化制度から朝鮮学校を排除。幼児教育・保育の無償化制度から外国人学校を排除。 ◆技能実習生／長時間・低賃金労働。暴力・不当解雇・恋愛禁止等の人権侵害事件多発。◆難民／難民認定を極端に制限。認定率は諸外国の20～50%に比べ、日本は1%未満。
◆入管／被収容者に対する非人道的な処遇が常態化。
高賛侑監督は前作「アイたちの学校」で朝鮮学校差別問題に焦点を当て、国内外で大きな反響を呼んだ。本作品では、全ての在日外国人に対する差別政策の全貌を浮き彫りにする。

2024年 2月23日(金)(休)
15:00 スタート！
¥500
野火止 RAUM
（東京演劇アンサンブル）
埼玉県新座市野火止 3-16-24
お申込み ticket@tee.co.jp ／ 048-423-2521

企画／東京演劇アンサンブル切羽委員会
後援／「国連・人権勧告の実現を！実行委員会」